

浅野誠

# 庭畑

2016年4～12月

2021年2月発行

本ファイルは、私のブログ「沖縄南城・人生創造・浅野誠」の記事の「庭畑」カテゴリのものを編集したものだ。

2004年9月に始めた庭畑づくりが、12年たち、維持管理に重点が移り始めたころの2016年の様子だ。現在も楽しんでいるハーブや果樹、そしてティートリー、ラクティア、サガリバナなども出そろった時期である。繁殖し過ぎて、ジャングル状態ともいわれることから脱するために、大胆な剪定を始めたころだ。

ハーブ育ても安定してきたこともあって、記事の半数は『連載 私とハーブ』が占めている。ほとんどが我が庭畑の記事だが、多くを学んだ南城市オープンガーデンの記事も含まれている。

# 目次

年月日はブログ掲載日

- 2016年12月30日 オレガノ レースラベンダー ハーブのベランダ栽培 『連載 私とハーブ』 24
- 2016年12月22日 カモミール ジャーマンとローマン 『連載 私とハーブ』 23
- 2016年12月20日 剪定 植え替え このごろの畑庭作業
- 2016年12月13日 セージ類 『連載 私とハーブ』 22
- 2016年12月08日 ベランダで家庭菜園
- 2016年12月03日 ヤロー ウォール・ジャーマンダー ゲッケイジュ 『連載 私とハーブ』 21
- 
- 2016年11月27日 シルバー人材センターの堆肥とチップを畑庭に活用する
- 2016年11月25日 オープンガーデン 母ハーブ研究室さん、西原明美さん、當山隆さん、山内光さん宅
- 2016年11月18日 ステビア メキシカン・スイート・ハーブ 『連載 私とハーブ』 20
- 2016年11月09日 ティートリー レモンティートリー 『連載 私とハーブ』 19
- 
- 2016年10月29日 レモンバーム (メリッサ) ベルガモット ローゼル 『連載 私とハーブ』 18
- 2016年10月19日 野菜畑をベランダに移す 秋の畑・庭作業
- 2016年10月14日 レモングラス ベチパー 『連載 私とハーブ』 17
- 2016年10月04日 台風 マンゴー剪定
- 2016年10月03日 月下美人開花
- 2016年10月01日 ローズマリー 『連載 私とハーブ』 16
- 
- 2016年09月19日 タイム 『連載 私とハーブ』 15
- 2016年09月15日 着生ランを楽しむ
- 2016年09月13日 ウリズンマメ=リュウキュウシカクマメなど、このごろの野菜収穫
- 2016年09月09日 マウンテンミント ペニーロイヤルミント 『連載 私とハーブ』 14
- 2016年09月02日 アセローラ
- 
- 2016年08月29日 ペパーミント ジンジャーミント ミンティア 『連載 私とハーブ』 13
- 2016年08月25日 ユーフォルビアいろいろ2 ホコバテイキンザクラ ギンリュウ クロトン ハナキリン
- 2016年08月22日 ブラックミント スイスリッコラミント オーデコロンミント キャンデーミント  
スピアミント パイナップルミント 『連載 私とハーブ』 12
- 2016年08月20日 ダイアモンドフロスト ラクティア・クリスタータ ミルクブッシュ  
ユーフォルビアいろいろ
- 2016年08月16日 クールミント バナナミント アップルミント 種類別ハーブの話1  
『連載 私とハーブ』 11
- 2016年08月11日 殖やし方 らせん型ハーブ園 肥料 季節など 育て方2 『連載 私とハーブ』 10
- 2016年08月04日 手間がかかるものかからないもの 育て方1 『連載 私とハーブ』 9

- 2016年07月28日 防虫剤 入浴剤 使い方4 『連載 私とハーブ』8
- 2016年07月22日 薬用酒 薬用茶 使い方3 『連載 私とハーブ』7
- 2016年07月17日 ドラゴンフルーツの開花 連続写真
- 2016年07月15日 料理 野菜サラダと味付け 使い方2 『連載 私とハーブ』6
- 2016年07月09日 ハーブティー 使い方1 『連載 私とハーブ』5
- 2016年07月07日 サガリバナの大量開花
- 2016年07月05日 ハーブを広める 私のハーブ歴4 『連載 私とハーブ』4
- 
- 2016年06月28日 本格的ハーブ栽培へ 私のハーブ歴3 『連載 私とハーブ』3
- 2016年06月23日 池 メダカとグッピー
- 2016年06月16日 アロエ鼻うがい 続 私のハーブ歴 『連載 私とハーブ』2
- 2016年06月11日 ドラゴンフルーツ ライチ アマリリス 第二号池作り
- 2016年06月04日 『連載 私とハーブ』スタート 連載のあらまし
- 2016年05月28日 我が庭畑 アジサイ ソテツ クチナシ リュウキュウハギ マンゴー バナナ
- 2016年05月14日 もう咲いたサガリバナ=サワフジの花
- 2016年05月10日 花の季節 メドウセージ タイワンレンギョウ ハンギングヘリコニア ペンタス サンニン  
=月桃
- 2016年05月08日 満開のティートリーと開花しはじめたリュウキュウキョウチクトウ
- 2016年05月03日 ティートリー満開へ
- 2016年05月01日 ピタンガ ライチ パッションフルーツ ブルーベリー 我が庭の果樹の近況
- 
- 2016年04月26日 コデマリ アマリリス ミニバラ ケイトウ ネコノヒゲ=クミスクチン
- 2016年04月19日 オープンガーデン2 大城徳明さん宅 知念宮子さん宅
- 2016年04月17日 オープンガーデン1 すごい庭 参考になるアイデア満載 中村光博さん宅
- 2016年04月14日 庭畑は花盛りになりそうな来週 オクラレルカ リュウキュウキョウチクトウ  
ハンギングヘリコニア など
- 2016年04月11日 ソテツの新葉
- 2016年04月04日 ブーゲンビリア リュウキュウバライチゴ レモンの花 ハブの骨

2016年12月30日

## オレガノ レースラベンダー ハーブ のベランダ栽培 『連載 私とハーブ』

### 24

オレガノは、育て始めて10年ぐらいになるだろうか。強い種類だ。繁殖しすぎて困ったこともある。味も強い。ティーには少ししか入れない。料理にたまに使うが、少しだけだ。大量に収穫した時、以前に近隣のレストランで習ったオレガノペーストを作ったことがある。オレガノをすりつぶしてオリーブオイルを加えるだけだ。



ラベンダーは、沖縄ではなかなか難しい。でも、レースラベンダーだけは育つという事で、苗店でよく売っている。それでも、夏を越すのは難しく、私は失敗の連続だ。いつか、夏を越させたい。

ラベンダーもそうだが、今年から、難しいハーブや料理向けのものは、ベランダで育て始めた。

現在、ベランダで育てているのは次の通りだ。無論、庭で露地植えとベランダの双方で育てているものも多い。

ルッコラ、ジャーマンカモミール、コリアンダー、イタリアンパセリ、チャービル、フェンネル、フロレン

ンスフェンネル、ディル、レースラベンダー、ステビア、コモンセージ、タイム、ローズマリー

2016年12月22日

## カモミール ジャーマンとローマン

### 『連載 私とハーブ』23

ローマンも育てたことはあるが、ジャーマンを育てることがほとんどだ。一年草なので、毎年種をまかなくてはならない。愛知時代にも育てたことがあるが、土などの条件が合っていたせいも、よく育ち、こぼれ種で毎年育った。

ここ玉城でも、繰り返してきたが、成功したと言えるほどではなく、苦戦というべきだろう。細かい種に対応できる土ではないからだろう。ということで、今年は、鉢植えで、購入してきた土に種をまくようにした。

9月下旬に種をまいたものは失敗したので、10月末に第二回目の種まきをしたものが、ようやく順調に伸び始めた。昨年は、ローマンとジャーマンの双方とも、買ってきた苗を並べて鉢植えにした。並べると、違いがよく分かる。ジャーマンカモミールは、白い花をハーブティーにすると、とても甘い香りが漂い、鎮静効果抜群だ。体調最悪の15年ほど前は、いつもお世話になっていた。抜群に愛好してきたハーブだ。



2016年12月20日

## 剪定 植え替え このごろの畑庭作業

ようやくこの季節らしい気候になったと思ったら、また暖かくなる。

それにしても、野菜などの成長には絶好の時期。ベランダ菜園の野菜は日に日にぐんぐん伸びる。

このごろの庭畑作業を並べよう

### 1) ガジマルの剪定 (上写真) このところでは最



大の作業 もう高さ6メートルぐらいか。コントロールできる高さまでに剪定する必要がある。大胆にカット。切った枝葉は、通路に敷き、上にシルバーセンターから買って運んでもらったチップを載せる。コンクリート通路がふわふわの通路になる。

### 2) ハンギングヘリクニアの間引き (左写真)

なぜかぐんぐん伸びて密集状態。3割ぐらいの間引きする。高さ3メートル近い。春になると、美しい花を咲かせるだろう。

### 3) リュウキュウキョウチクトウの剪定 (ミフクラギ) (下右写真)

玄関への通路の橋を覆わせるつもりだ。高さ5メートル。下部中部の枝を剪定。1年もたてば、玄関通路のトンネルを作りそうだ。

### 4) 下右写真下部の手すりの上にこんもりとしていたオオバナリアケカズラの剪定。花の時期が終わるこの時期、毎年大胆に剪

定する。5月には、再び大量の花で覆われる。

5) 新しい観葉植物園? つくり 木々に日光が遮られて、山原の亜熱帯雨林状態になっているところの地上部分を、日陰や湿気を好む観葉植物を何種か植えた。2~3年たてば、新しい観葉植物園? ができると目論んでいる。

6) 木々が広がって、日陰になってしまった所にある植物の植え替えを進めている。



まざクワンソー (右写真)

7) ネギ

同じ苗でも日当たりの違いで、生育が異なる。下写真は、ベランダ菜園のもの。土などの違いもあるが、それにしても、違いが大きすぎる。同じ苗を同じ日に植えたのだが。





2016年12月13日

## セージ類 『連載 私とハーブ』 22

セージは、よく知られたハーブだが、種類が多い。現在育てているのは、次の四つ。

ボッグセージ、メドウセージ この二つは似ている。花の違いがわかりやすい。二つとも、湿り気がある所を好む。手入れなしでも、広がっていく。二つとも、防虫剤として使用している。(下写真は、ボッグセージ)

チェリーセージ (上左写真)

これは何度も失敗しているが、現在の一株は、ようやく根付きそうだ。赤い花が印象的だ。

コモンセージ (上右写真)

何度も失敗してきたので、今年は、10月にベランダで鉢植えにして見た。今のところ、順調だ。

他にもいくつか育てたことがある。

メキシカン・ブッシュ・セージは、7～8年前まで育てていたが、元気が良すぎて、他のハーブを困らせるほどだったので、やめた。花がかなり美しいものだ。



ホワイトセージは、北米の先住民が祈りに使うものだが、2～3度苗を買って植えたが、成功したことはない。

セージ類は、かつては墮胎剤としても使われたほど、強力なので、使い方には注意が必要だ。





2016年12月08日

## ベランダで家庭菜園

これまで庭畑で、野菜を栽培してきた。しかし、果樹を中心にした木々が大きくなり、野菜を植える地面を覆って、日光が届く量を激減させている。

そこで、3階ベランダを家庭菜園にすることにした。(中写真) プランターや鉢に、種や苗を植え付けている。主として葉野菜だ。実野菜は、庭畑でまだ育てている。合わせて、露地植えではうまくいかなかった何種類かのハーブもベランダで育て始めた。



現在ベランダ植えの野菜 レタス(上中写真) ルッコラ(上右写真) ハツカネギ(下右写真の左側) コマツナ(下左写真) ミズナ チマサンチェ(上左写真) ハンダマ(下右写真の右側) サニーレタス パセリ ニラ コスレタス  
ハーブ コリアンダー ステビア コモンセージ ジャーマンカモミール レースラベンダー フロレンスフェネル

現在地上で育てている野菜 トマト ナス ぐしちゃんいいな(カンダバー) エンサイ ニラ ハンダマ セロリ シマラッキョウ アスパラガス

葉野菜は自給できている。白菜やキャベツは難しくできていないが。ベランダの現在は、少々雑然としているが、そのうち家庭菜園らしくしようと思う。





撮影のもの

2016年12月03日

## ヤロー ウォール・ジャーマンダー ゲ ツケイジュ 『連載 私とハーブ』 21

ヤロー

風邪向けにいいという話で、長年植えてきたが、最近  
は風邪をひかないので、効果を体験していない。ここ2  
～3年広がってきたが、世話不足で、今夏絶えてしまっ  
た。上左写真は、2015年9月7日神戸布引ハーブ園で

ウォール・ジャーマンダー（中右写真） 失敗ばかりし  
ているが、わずかに一株がひっそりと生きている。



ゲツケイジュ（別名 ベイ、そしてローレル）（下左写真）

10年前に植える。高さ1～2メートル 時々、ティー  
や料理用に使う。枝葉で月桂冠を作るものだが、私はま  
だやったことがない。



2016年11月27日

## シルバー人材センターの堆肥とチップを 畑庭に活用する

数年前から、木材を細かくしたチップを畑に使用すると大変良いという話は耳にしていた。しかし、どんなもので、どこで購入すればよいか分らなかった。

10月下旬の南城祭のシルバー人材センターのコーナーで、その話を、同センターが作る堆肥の話とともに聞いた。



そこで、早速、センターの事務所に出かけ、チップと堆肥を予約してきた。希望者殺到で待つ必要があるという事だった。それらを、11月中旬に運搬していただいた。チップ1立米と堆肥11袋を、写真にとった。

チップは、かなりの量なので10日かけて、庭畑のあちこちに置いた(下右写真)。地面の乾燥や雑草を防ぐために、植物の根元に置くのを中心に、階段通路(左写真)にも置いた。一年もたてば、発酵して栄養効果も出てくるだろう。

必要な面積の半分ぐらいだったので、近く2回目の注文をするつもりだ。

効果が表れるのは、かなり待たなくてはならないが、楽しみである。



2016年11月25日

## オープンガーデン 母ハーブ研究室さん、西原明美さん、當山隆さん、山内光さん宅

毎年春秋の企画だが、ほとんど毎回参加。新しく開場したところは、必ず出かけることにしているが、今回久高島で初めて開場されるところは、次回以降の参加にする。

ということで、4会場に出かける。



まず母ハーブ研究室さん（上右写真）。以前からブログやフェイスブックなどで知っていたので、訪問できる機会を待っていた。関係者とユンタクして経験交流したかったのだが、平日午前だったためか、お会いできなかったのは残念だ。畑地に、熱心に育てておられる。肥培管理がしっかりなされており、豊かに生育している感じた。また、次の機会を楽しみにしたい。



隣接するのは、西原明美さんのお庭（左写真）。ブーゲンビリアが多種育っているのに、驚く。赤やピンクといったよく見かけるものではなく、多彩な色が一杯だ。

當山隆さんの庭（下左写真）。バラと果樹が自慢の庭。かなりの樹齢の多種のものが植えられている。ミカン類はたくさんの実をつけている。パイナップルまで実をつけている。写真中央に見える。

山内光さんのお庭（下右写真）。美しく整備されまともなお庭だ。こんなにきれいに整備するのは、私にはできないことだ。我が庭に最近植えたテイカカズラの立派なのがあった。

オープンガーデンは、我が家の庭畑作業の参考になることがたくさんある。いつかは、我が庭もオープンガーデンしたいのだが、見れば見るほど、無理かな、と思ったりする。でも、自然体で、整備されない美しさ？を追求するのもいいだろう。





2016年11月18日

## ステビア メキシカン・スイート・ハーブ 『連載 私とハーブ』20

ステビアとメキシカン・スイート・ハーブは、ティーに砂糖代わりの甘味を加えるために使っている。だが、全く異なる種類だし、育て方も異なる。

ステビア(左写真)は、デリケートで何度も失敗したが、一応育ってはいる。露地でも栽培しているが、写真はベランダの鉢に植えたもの。枝が伸びすぎた

ものを、取り木のようにしたら、ちゃんと根付いた。細かい白い花は地味だ。

メキシカン・スイート・ハーブは、逞しいもので、あちこちに育つ。ツルのような枝を伸ばして広がっていくからだ。現在、多分10ヶ所以上で頑張っているだろう。雑草フージだ。

ステビアは有名なので、誰もが知っているが、メキシカン・スイート・ハーブを知っている人に出会ったことはない。そこで、客人に試しにと、枝葉をそのまま噛んでもらって、甘さを感じてもらおう。

最近は、我が庭畑以外でも、あちこちに見かけるようになった。





2016年11月09日

ティートリー レモンティートリー 『連載

## 私とハーブ』19

ティートリーは、1990年代から、そのアロマエッセンスと付き合ってきた。良い香りだし、時には虫刺され対処用にも使った。オセアニア原産で、現地の人に長く愛されてきたものだ、

ここに住み始めたころ、苗店で苗を見つけた。育て方は、全くわからないまま、植えておいた。1~2年後、ようやくあるウェブサイトで、現地では湿ったところで育っていることを知る。そこで、畑の端の湿気の多

いところに移植した。すると、ぐんぐん伸び始めた。手入れ無しだったが、3メートルをすぐに越した。そのころ、大きな台風が来て、幹ごと折れた。根元近くだったので、回復不能かと思いきや、見事によみがえり、今では5メートルを超す。

今では、樹高5メートルを超している。上写真は、幹部分。右写真は、枝葉を下から見る。枝葉を10分以上煮出して、入浴剤にしている。良い香りに包まれて極楽感が溢れる。恵美子は、枝葉を袋に包んで、室内のあちこちに置き、防虫と香りを楽しんでいる。ティーには使えないのが残念だ。



2~3年前にもう一本苗を買ってきて植えた。これも育ってきて、隣の木と近くなりすぎたので、移植予定だ。挿し木を試みて、成功しかかったが、放置していたので、ダメになった。



左写真のレモンティートリーは、姿も匂いもティートリーに似ているが、全く異なる種類だ。3~4年前に、苗店で見つけて植えた。現在高さ1.5メートルぐらいだ。時々、ティーに入れている。



2016年10月29日

レモンバーム (メリッサ) ベルガモ  
ット ローゼル 『連載 私とハー  
ブ』 18

今年は10月下旬まで暑さが続き、例年だと、暑さが収まる10月半ばには、急に生育がすすむハーブが多いが、今年は困っている。ハーブも私も。

レモンバーム (メリッサ) (上写真)

地味なハーブという感じだが、栽培し始めて10年を超す。放置していても、元気だ。味も地味だが、ハーブティーには、ほとんど常時入れている。夏は、暑さのためか、生育が緩やかになり、秋以降、元気に殖えていくのが例年だが、今年は、今ようやくスタートした感じだ。



ワイルド・ベルガモット (右写真)

何度か植えて失敗してきたが、現在のものは定着している。夏はじっとしている感じだが、秋以降活発になる。ウェブで見ると、美しい花が咲くとの事だが、我が庭ではまだだ。ティー用に刈り取っているためだろうか。

ローゼル (下写真の2枚)

我が庭では多年草化している。8~9月にぐんぐん伸び、開花に至る。花を摘み取って、いろいろなものに活用される。近隣農家では、これを「漬けて」いる方がおられる。我が家でもしたことがあるが、普段はティー向けだ。



2016年10月19日

## 野菜畑をベランダに移す 秋の畑・庭 作業

秋めいてきたと思うが、気温の方は依然として30度近く、夏とお別れできないようだ。

それでも、庭畑作業は、完璧に秋の作業だ。

ところで、上写真のように、我が庭畑は、森状態に近づいている。だから、剪定を大胆にしないと、

地面付近が日蔭になる。日光が好きな植物が悲鳴をあげる。そこでいくつかは移植をした。それでも、日がよく当たる面積には限りがあるので、葉野菜などは、3階ベランダのコンテナで育てる方向に切り替えている。一部の一年草系のハーブもそうだ。



野菜は、日常的に手入れが必要だし、キッチンにも近いのでベランダが便利だということに加えて、日当たりがとても良いからだ。

現在生育中は、小松菜・ビタミン菜・水菜・ルッコラ・チマサンチェ・パセリ・ニラ・ジャーマンカモミール・コリアンダー 以上3階ベランダ (左写真)

トマト・ナス・ウリズンマメ・エンサイ・カンダバー (グシチャンイイナ)・シマラッキョウ・サラダナ・ハクサイ (最後の二つは、苗が虫に食われていることを今朝

発見 「軟弱なものはすぐやられる」 以上畑の野菜

ハンダマ・モロヘイヤ・二十日ネギ・オキダイナ・ステビア 以上畑とベランダの双方で栽培

我が家のシンボルにもなっているブーゲンビリアは、高さ10メートルもなり、驚かせられたが、もう上に伸びるのは無理だ。そこで、3階ベランダの大型鉢に、知人からいただいた地元種を春に挿し木した (右写真)。高さ1メートルを越え、開花し始めた。2～3年後には3、4階は、これが覆うことになるだろう。





2016年10月14日

## レモングラス ベチパー 『連載 私とハーブ』 17

### レモングラス

ここに住み始めた初めのころから育てているので、もう10年を超しそうだ。最初のころは失敗が多かったが、お店で材料切れになったとのことで、差し上げるために来宅されたタイ料理のノックさんから育て方についてアドバイスをいただいた。

取るために切っていると、だんだん根が上がり浮いてくるので、2～3年に一度植え替える必要があるとのこと。ということで、その後は、アドバイスにしたがって、安定した生育をさせている。植え替えた直後の2～3か月は収穫できないので、3～4か所で育てる必要がある。

ハーブティーの主力素材だが、タイ料理では根元を切って料理に使うそう。私たちはまだやっていない。ススキと間違えて、取り除かれてしまうことが結構あるらしい。素人目には、区別はちょっと難しそう。



### ベチパー

7, 8年前に、近所のハーブ専門店の花風さんからいただいた苗だが、大繁殖している。収穫しきれず、抑え込むためにカットすることもしばしばだ。イネ科で、高さが2メートルを越えると、傾いて広がっていつてしまう。

私は、もっぱら、防虫効果を期待して、細かくカットして防虫袋に入れている。数年前のウェブサイトには、ゴキブリ除けに効くと書いてあった。また、シャネル5番の材料だそう。

アロマにも登場してくる。香りを生かした使用法を学習しなければならないと思っている。





2016年10月04日

## 台風 マンゴー剪定

今回の台風は、特別警報が出され、905ヘクトパスカルを記録するほどのものだった。しかし、暴風半径が100キロ前後で小さくまとまったものだった。そのためか、中心から200キロ近く離れた、このあたりでは、強い台風の印象を与えなかった。

ただ、波は大きかった。海岸の排水口は、完全に押し寄せられた波で封鎖され、そこに注ぐ川はせき止められてしまっている。幸い、雨量は少なく、河口付近にたまっている状態だ。

上写真は、砂で埋まった海岸の排水口とリーフに砕ける大波  
我が家も、ちょっと枝が折れたぐらいだ。我が家の東側の森が、防風林の役割を果たしたことも大きい。風で飛ばされた枝葉の片づけは大変だが。そして、数日後に表面化する潮風による塩害が予測される。植物の枝葉を水で洗う必要があるが、いつもほっておいて、自然に任せている。その結果、数日後、葉っぱが大量に落ちる。仕方がないと思っている。

台風襲来の数日前に、マンゴーの剪定をした。高さ5メートル近くになる大枝を、3メートル以下になるようにした。毎年のことだ。これで切り出した枝葉は、半端な量ではない。すべて堆肥化するが、半月ほどの作業だ。

左写真は剪定前、右写真は剪定後



2016年10月03日

### 月下美人開花

月下美人育ては、もう40年近くなるはずだ。ここに住み始めてからもずっと何株か植えてきたが、最近はなかなか開花しない。どうやら栄養不足だったようだ。今春から堆肥や固形有機肥料を与え始めた。夏ごろから、月に一回は咲くようになった。

28～29日晚、新月まもないころに6個咲いた。夜8時過ぎに開き始め、10時頃から満開状態になるため、気づかずに鑑賞し損ねることが多い。

今回は、夕方から朝までの連続写真を撮影できた。撮影時間を順に書いておく

う。

夕方6時⇒8時⇒10時30分⇒翌朝10時ごろ

匂いがすごくいい。ドラゴンフルーツと花は似ているが、匂いは断然月下美人だ



2016年10月01日

## ローズマリー 『連載 私とハーブ』 16

ローズマリーは、アロマで20年前から親しんできたもので、現在地でハーブ栽培を始めた時、最初から育ててきた。ハーブの中では数少ない木質のもので、成長はゆったりしている。地面から上に伸びるので、台風に弱くなる。もっとも長く育てているものも、立派になったと思ったころの2年前の台風で傾いてしまった。翌年には傾いたまま、立派に成長し始めたと思った途端、再び台風に見舞われる。今回は潮風にやられて、なかなか回復せず、ついに三分の二はダメになってしまった。(上写真)



現在、4本育てているが、そのうち一本は這うタイプで、それが一番元気がいい(左写真)。このところ、これを利用してハーブティーにすることが多い。高くないし、らせん型ハーブ園のなかの場所が台風の影響を軽度に行っているのが幸いしているようだ。

上に伸びる普通タイプの3本についての夢は、高さ1メートルぐらいのこんもりと繁るものにするのだ。

下写真は、普通タイプのうちのもう一本

活用は、もっぱらハーブティーだが、料理用にも使うようにしたいと思っている。

余談 ところで、昨年から、オーストラリアン・ローズマリー2本を植えている。はじめはローズマリーかと思っていたら、苗店の人から、葉が似ているからそういう名前になっているだけで、種類が全く異なるそうだ。がっかりだ。でも、そのうち一本は立派に育っている。可愛い花がいつも咲いているのは不思議だ。





2016年09月19日

## タイム 『連載 私とハーブ』 1 5

タイムは、定着に苦闘してきたものの一つだ。数年前までは売っている苗には出会わなかったの、種から始めるしかなかった。10年前に一度成功したが、台風の後には消えた。3、4年前から苗が店頭に並び始めたので、それを植えてきた。しかし、定着率は30%以下だ。土が合わないのか、放任型の私の世話不足か、

育て方の間違いか、ともかく原因はよくはわからない。

そのなかでもっとも成功したのはクリーピングタイム（下写真）で、今もっとも収穫できるものだ。

そして、2015年末、先に書いたペパーミント同様、種から、私にしては丁寧に育ててみて、何株もの定着に成功した。発芽に一月以上の時間がかかるので、またもや失敗したのかと思ったが、発芽して伸び始めて大喜びをした。10センチ以上になって、定植したが、やはり成功率は低い。それでもいくつかは生きている。

現状は、数株が生きており、ハーブティー向けに収穫をしている段階だ。

タイムは、元気を出すのに有効だし、去痰剤としての役割も果たすので、私が愛用してきたものだ。主としてアロマエッセンスとして活用してきたが、今は、生のまま、ハーブティーに使っている。濃い味だから、ほんの少力で味が出てくる。



2016年09月15日

## 着生ランを楽しむ

ランをいただくことが多いが、以前はどう育てたらいいかわからず、2~3年で駄目にしてしまうことが多かった。そして、ランを本格的に栽培するのは大変だという印象があった。

そのうちに、木の枝の二股になった箇所植え付けることを、どこでだか忘れたが知った。これを着生ランというそう。恵美子は、珊瑚の小さな岩に植え付けるのを覚えた。

ということで、今では、鉢で育てるほかに、着生ランや岩に植え付けることを、家の内外のあちこちでしている。合計すると、30~40株になるのだろうか。こんな風にして何年もたつので、今では、季節を問わずいつも何かが咲いている状態になっている。

着生の方も、失敗を重ねながら、昨年初めて、カトレヤなどの開花に成功した。海洋博公園の洋ラン博覧会に毎年出かけるが、その際に栽培の知恵を仕入れたりもしている。着生ランは、幹に皺がいっぱいあるようなものが多いらしい。クロキなどは上等のようだ。肥料は、固形肥料を茶袋に入れて、近くに置く、などということも教えられた。

200~300円という安価で苗を売ってたりすることに出会うと、買って



てきて植え付けている。

今回は、珊瑚岩や着生のいくつかを紹介しよう。

左上 クロキに植えたカトレヤ。昨年開花。今年も



新しい茎を3本伸ばしている。



右上 バンダ・ミス ジョアキム (シンガポールの国花) サガリバナの木

左写真 名称不明 卓球仲間からのいただきもの サガリバナの木

右はオキナワセッコク 植え付けたばかりだ。フウリンブツソウゲに着生させた。





カトレヤ (上左写真) 「きずもの」を3個、500円で買ってきて、植えたばかり ソテツの根元近く。もう元  
気を出している。



ナゴラン (上右  
写真) ビワの  
木に着生

左写真は名称  
不明。珊瑚岩に  
植えた。室内でも  
頻繁に咲く。

右写真はサク  
ララン。ラン  
の仲間ではない



が、ライチの木に植え付けた。昨年開花

フウラン (下写真) 最初は、枇杷にうえていたが、へご板が良いと、本にあったので、放ってあったへご板を活用  
する。





2016年09月13日

### ウリズンマメ＝リュウキュウシカクマメなど、このごろの野菜収穫

ようやく暑さにも区切りが付き始め、近くの野菜農家では、秋冬の野菜準備にとりかかっている。我が畑も、秋冬の準備を始めなくては、と思っている。

今、収穫の真っ最中は、ウリズンマメ＝リュウキュウシカクマメ。9月上旬までは、時々少しずつだったが、9月中旬になって突然、大量だ。どうしてだか、よくわからない。毎年もそうだ。(上写真2枚)

この苗は、3～4年前に植えたもので、毎年大きく育つ。多年草化している。今年も、3～4株、追加したが、合計で10株ほどだ。



庭畑が森状態に近づいてきているので、背の低い葉野菜などは、ベランダで育てることにしている。根が深いアスパラガス(下左写真)と日蔭での育つニラ(下右写真)・三つ葉(中右写真)は、そのまま地上の畑だが。

ベランダでは、プランターなどに植えているが、食事づくりに必要なものをすぐ取れて便利ではある。

現在の収穫中は、水菜(下中写真)、小松菜(次ページ中左写真)、・ビタミン菜、二十日ネギ(次ページ中右写真)、ルッコラ(次ページ上右写真)、ハンダマ(次ページ上左写真)などだ。







今植えたては、ミニトマト・ナスで、オキダイナの種も播いた。



ところで、鹿児島にいる息子浅野陽樹が中心になっている研究が、琉球新報に載っていると、知人から連絡があった。共同通信が配信したもので、全国のいくつかの新聞に掲載されている。

与論島と提携してすすめている月桃の研究だ。「植物使い生ごみ肥料の悪臭を防ぐ」という記事タイトルだ。息子の研究材料の月桃は、我が庭畑の月桃を採取して、私が送ったものも使っている。不思議な縁といってもよいだろう。



2016年09月09日

マウンテンミント ペニーロイヤルミ

ント 『連載 私とハーブ』14

マウンテンミント

ちょっと変わったタイプだ。10年近く前に苗店で買って育ててきたが、名札にはマウンテンミントとミントの名前がついているが、普通のものとはちょっと違うと疑問を感じていた。それでも、定着し元気に育っていく。普通のミントのように、地下の

根を伸ばして広がっていく。

その疑問に輪をかけたのは、その数年後、名札に同じくマウンテンミントとついているが、育てているものとちょっと違って、葉が針のように細いものだ。これも育ててみる。どちらがマウンテンミントなのだ、と疑問を感じつづける数年だった。

最近になって、どうやら細い葉が、そのうち太くなるらしいことがわかってきて、双方ともマウンテンミントらしいと思うようになった。でも、疑問が氷解したというわけでもない。

香りも味も強く、タイムやローズマリーに似ている。元気を出させてくれるタイプのようだ。時々ティーに入れている。

しっかりと定着しているが、繁殖しすぎるほどではない。

ペニーロイヤルミント

一風変わっている。地面を這って広がる。グランドカバーとしても使われているようだ。踏むとキュツという音がして可愛い。ハーブティーとして使えるという本と、使えないという本とがある。私は使っていない。香りはいいが、飲むのはやめておいた方がいいという感じがするからだ。

アリよけになると本にはあるが、我が家に信じがたいほど大量のアリが生活している状態には、目立つほどの効果があるわけではない。



2016年09月02日

## アセローラ

庭畑でとれた果物のことを久しぶりに書く。

8月は、バンシルー（グアバ）がとれた。そして、ドラゴンフルーツは6月以降収穫し続けている。10月まで続くだろう。

そして、今は、アセローラの季節。本格的にとれるのは、今年がはじめてだ。植えて5年ぐらいの木が2本。3年ぐらいが一本だ。ピタンガにとっても似ている。少々酸っぱいのが違いか。表面がすべすべなのも違いだろう。



花は、小さくて可愛い。数日後には、実になる。緑の実が1～2日で色づく。赤くなって収穫。一日で濃い赤になる。食べごろだ。さらに一日経つと、もうだめだ。



2016年08月29日

ペパーミント ジンジャーミント ミン

ティア 『連載 私とハーブ』13

ペパーミント

ペパーミントは、連載9でも少し触れたが、栽培に苦労してきた。ペパーミントは、アロマでもよく使われるもので、是非育てたいものだった。

10年ほど前から何回も、苗店で買った苗を植えていたが、定着しなかった。原因不明だ。

2015年末、種から挑戦してみた。種まき用の小さく仕切られたポットに2、3粒ずつ播いた。一か月以上たってから発芽し、3、4か月ぐらいしてから定植した。すると、ほとんどが定着し、現在は10株近くが育っており、収穫も始められた。うまくいった原因もよくはわからない。



ものとして、オレンジミント、コルシカミントなどがある。

ジンジャーミント

ジンジャーミントは、昨年買ってきた苗を植えたものだが、広がり始めている。というか、広がり過ぎ状態になりつつある。

近くに植えていたはずのカーリーミントが、知らぬ間に、ジンジャーミントに覆われて消えている。カーリーミントは、何度か買ってきた苗を植えてきたが、失敗続きだ。他に、買ってきた苗を植えたが、定着しなかった

ミンティア

今年に入って、知らないミント?が売られていたので、植えてみた。育ってはいる。ミントの仲間と思っていたが、インターネットで調べると「常緑低木」で「食用ではありませんので、ミントティーなどにはご利用頂けません」と書いてある。「触れると香る」というものだそうだ。ハーブと言えるかどうかは、私にはわからない。

このごろ、こうした類のものによく出会う。





2016年08月25日

ユーフォル

ビアいろい

ろ2 ホコ

バテイキン



## ザクラ ギンリュウ クロトン ハナキリン

20日記事の続きで、我が庭畑にあるユーフォルビア科の植物の紹介だ。いずれも、今回、初めてユーフォルビアの仲間であることを知った次第だ。なかには、名前さえ知らなかったものがある。

まずハナキリン (左上写真)。40年前に育てていたことを思い起こし、昨年、小さな苗を植えた。これから大きくなることを期待する。トゲが鋭くて痛い。

ユーフォルビア科には、これまで紹介したユーフォルビア属のものだけでなく、いろいろな属のものがある。

まず、タイワンアブラギリ属のホコバテイキンザクラ (右上写真)

数年前に、どなたかにいただいて鉢植している。近所には高さ3メートルほどの露地植えのものがある。赤い花が美しいが、今は盛期を過ぎている。

次は、ペディランサス属のギンリュウ (ダイギンリュウともいう) (下左写真)。これもどなたかにいただいて露地植えと鉢植えの二つを育てている。しっかりと育っている。結構美しいものだ。花がどんなかはまだ知らないが、現在のところ、観葉植物として楽しんでいる。

次は、身近に溢れているクロトン (下右写真)。クロトンノキ属だそうだ。我が庭畑にも何本もあるが、写真は、一番大きいもので、高さ3メートル近い。たくさんの種があつて、40年前にはこれもあれもクロトンというのを不思議に感じた。いまでは、暮らしのなかに、一番馴染んでいる植木だ。



調べれば、このほかにもありそうな感じがする。





2016年08月22日

ブラックミント スイスリッコラミント オーデコロンミント キャンデーミント  
スペアミント パイナップルミント ハーブ12

ミントの続きだ。

ブラックミント (上左写真)

やや小さめの葉で、しっかりした雰囲気をもつ。ブラックという名ほど黒くはなく、ちょっと黒っぽいかという色。数年前から育てているが、最近ようやく定着した。

スイスリッコラミント (上右写真)

大き目の葉で、香りがいいミント 繁殖力は普通で、知らぬ間に消えたり、生き返ったりしている。

オーデコロンミント (下左写真)

スイスリッコラミント以上に香りが強いが、癖があるので、好まない人もいそう。オーデコロンという名前だが、私がオーデコロンの香りを知らないで、妥当かどうかはわからない。何度か植え付けたが、失敗することも多い。



キャンデーミント (下右写真)  
地味だが、気づかぬうちに広がっているが、繁殖しすぎるほどではない。味も地味な印象。似





たものに、オレンジミントがあり、植えた記憶もあるが、私には両者の区別が見つからない。

#### スペアミント (上左写真)

栽培して10年を超す。条件がよくないところで育てていたの、知らぬ間になくなり、今年に入って、買って来た苗を再び植えたが、再び消えた。だから、写真は3月末撮影のものだ。

チューインガムのスペアミントそのものの香り。よく、料理素材の上に飾って使われている。

#### パイナップルミント (中右写真)

斑入りの葉が印象的。苗は結構強い。パイナップルの味か香りがするだろうが、私はそれほど感じない。



2016年08月20日

## ダイヤモンドフロスト ラクティア・クリスター タ ミルクブッシュ ユーフォルビアいろいろ

ユーフォルビアという言葉を知ったのは数年前、ユーフォルビア・ダイヤモンドフロストの苗を植えた時だ。なかなか覚えられない名前で、覚えるのに苦労した。

その後、出会ったのは3年前、オープンガーデンで訪問した際に、知人にいただいたユーフォルビア・ラクティア・クリスターだ。これが同じユーフォルビアの仲間だとは全く信じられない。訪問者に説明しても、多分信じておられないだろう。写真は、この二つのツー・ショットだ。この二つは、このブログに何度も紹介した。



写真手前のダイヤモンドフロストは、恵美子が気に入って、殖やしてあちこちに育っている。写真後方のラクティアは、鉢植えしていたのが順調に育ち、露地植えにした。いまでは高さ50センチ近い。知人宅では2メートル近い巨大なものになっていた。これを分けていただいたので、我が家のものの親になるわけだ。

これを2メートル余りに育て、我が家の主木の一つにしようと目論んでいる。

そして、インターネットで調べていくと、我が庭畑には、いくつもユーフォルビアの仲間を育てているのを発見。ユーフォルビアの仲間だとは全く知らないでだ。そこで、2～3回に分けて紹介していこうと思う。

次は、下2枚の写真のミルクブッシュ（ミドリサンゴ アオサンゴ）。これは、どなたかにいただいて庭植えしたもののだが、名前がわからなくて、ブログで質問したら、親切な方がミルクブッシュという名を教えてくださいました。これがユーフォルビアであることは、今回調べて初めて知った。

高さが2メートルを超して、他の植物を競合してきたので、剪定を兼ねて、挿し木したら、見事に成功した。なにもしないで、突き刺しただけだが。我が家の相性がいいのだろう。

それにしても、これもまた風変わりな植物だ。切るとミルクのような液がでるのが、名前の由来とのことだ。ユーフォルビアの仲間の液は毒を含んでいるようだ。







2016年08月16日

クールミント バナナミント アップルミント

種類別ハーブの話1 『連載 私とハーブ』11

いよいよ育てているものについて、種類別を書いていくことにする。最初は、定番ハーブのミント類だ。我が庭畑では10種類余り

育てているが、今回はそのうちの3つだ。

まずクールミント(中写真2枚)とバナナミント(上写真)。この二つは、異常と言っていいくらい繁殖しているの、どんどん整理することが必要だ。だから、育てているというよりは、放置し、時々処分しているというべきだろう。

そして、両者は交雑しやすい。だから、我が庭には、純粹クールミント、純粹バナナミント、両者の交雑ミントが育っている。さらに、日本ハッカを植えたこともあるので、それも混ざっている可能性がある。

この三つは似ているので、匂いをかがないと区別できないこともある。ハッカとクールとの区別も難しい。クールミ



ントは、チュー  
イングガムの  
クールミント  
の味・香りとい  
うのがわかり  
やすい。バナナ  
ミントは、とて  
も穏やかで、ク  
セがない、個性



が弱いといってもよいかもしれない。だから、ハーブティーのベースに使うにはいい。

だから、最近の我が家のハーブティーには、この二つがかなりの分量入っている。

双方とも、我が家では季節感なしに、年中育てている。あえて言うと、温度が高い方が好きなようだ。

アップルミント(下右写真)は、とても甘い香りを出すミントだ。味も甘さを感じる。クールやバナナほどの強さではないが、結構強いので、処分するほどではないが、放置しても育っている。とても柔らかい葉なので、水気があると、腐りやすいと同時に、しおれやすくあるので、収穫した後短時間に活用する必要がある。

クールミントとアップルミントとスペアミントは、我がハーブ園で最初に植えて、10年以上たつものなので、思い入れが強い。バナナミントは数年の歴史だ。

これら三種はもっぱらハーブティーに使っている。





2016年08月11日

殖やし方 らせん型ハーブ園 肥料

季節など 育て方2 『連載 私とハーブ』10

種や苗の多くは、苗店で売っているものだ。知人からいただいたものがいくつかある。近所の数軒の苗店で、見かけたことがないものがあれば、すべて購入して育ててみるということをしてきた。累計1

00種を超すだろう。そのなかで、上手く育てて定着したもの約50種を育てている現状だ。

種まきや苗を植える以外の殖やし方。

- 1) 種こぼれ ほっといても、翌年出てくる 例 バジル
- 2) 多年草化 ルッコラは、葉を下からとっていけばいい。開花したもの、開花しそうなのは取って使う。そうすると、冬も夏も越して多年草になる。
- 3) (地下) 茎で伸びる ミント
- 4) 樹木 (挿し木など)

ティートリーで何度か試みるが、一度だけ、新芽がでてきて成功しかけたが、結局、失敗

我が庭には、らせん型ハーブ園を作っており、そこで、我が家のハーブの半数以上を育てている。作るのに半年余りかけるが、その段取りを示そう。

1. 穴掘り 2. 枝葉の大量投入 3. 土かぶせ 4. 大きな石でらせん型をつくる 5. 半年寝かせる 6. 植え付け

そのなかでの植え場所は、種類の性格に合った、湿気・日当たり(日陰)・土質などを配慮して選ぶ。

第一代目は直径2メートル足らずで、7年ぐらい使用して、2年前に終了させた。現在の第二代目は、直径3メートル近くで、3年前に作った。(上写真中央は、ハーブではなくてサボテン ※後に、サボテンではなく、ユーフォルビアであることが判明)

らせん型ハーブ園は、10年前に、知人が紹介してくれた本で学んだ。その本をどなたかに差し上げたらしく、現在手元にない。オーストラリアのパーマカルチャに関わる本だったと記憶している。



## 肥料

基本は堆肥 自家製を基本にしているが、まだ不足なので、購入してきたものも使用している。もうしばらくすると、全て自家製でいけると思っている。

油かす・骨粉などを含んだ固形有機肥料、あるいは液体有機肥料を元肥・追肥として使っている。

全体としてみると、肥料を必要とするハーブは多くない。ミントなどは、肥料無しですむ。与えると、繁殖しすぎて大変なことになる。

## よく育つ季節

大別して冬型夏型がある。冬型は11～4月、夏型は5～10月に活性化し、そうでない季節はじっとしている。同じミントでも異なる。春に伸びるアップルと夏のクールとバナナとが代表例だろう。

## 私が考える沖縄がハーブに好条件である理由

- 1) 低温にならない。我が敷地の最低気温は8度。といっても、この12年間で一回だけだった夏も、33度を超さない。直射日光が強すぎて、それを嫌うものはあるが。
- 2) 多湿 水撒きは、降雨なしが数日続き、地面が乾いたな、と思う時だけでいい。
- 3) 沖縄の中南部の半分くらいは、ジャーガル（クチャが風化して、有機質を含むようになったもの）というアルカリ性土質が多い。日本では、滅多にないものだ。酸性を嫌うハーブが多いらしいから、好都合だ。

2016年08月04日

## 手間がかかるものかからないもの 育て方1

## 『連載 私とハーブ』9

話題を変えて、育て方について書こう。当然のことだが、種類によって扱いやすさが異なる。

1) きちんと手入れをして育てるもの。

a 一年草のもの チャービル コリアンダー ジャーマン・カモミール フェンネル類

多年草や樹木とは異なって、一年草のものは、毎年種まきか苗の植え付けが必要だ。なかには、こぼれ種から育つものもあるが。

b 未体験の新しいもの

c 上手く育てられないでいるもの この10年余り苦労してきたものに、タイムとペパーミントがある。昨年末、この二つを育苗ポットに種まきして、やっと成功しつつある。

d 生育してはいるが、不安定なもの ローズマリー

2) 安定状態にあるので、ほぼほったらかし そのなかには、レモングラスのように定期的な植え替えが必要なものがある。



3) 生育を抑え込むもの

殖えすぎて、他の植物を圧倒してしまう。根から引き抜いたりして、抑え込むことが多い。

クールミント バナナミント メキシカン・スイート・ハーブ 月桃(サンニン) ベチパーも大きくなりすぎると、大きくカットする。メキシカン・ブッシュ・セージもそうだったが、今は育てていない。

4) くりかえし失敗し、断念状態にあるもの

アーティチョーク ポリジ ホワイトセージ

コモンセージもそうだが、現在何度目かの挑戦をしている。

上手く育てられない失敗原因には、いろいろとある。

- ・水による根ぐされ
- ・台風によるもの 風による痛みがなくても、台風時の潮風のダメージが大きく、数日後にダメになるものも多い
- ・水切れ
- ・虫害・病害 未体験なので、書く材料がない
- ・高温 過剰湿度

失敗に一応の対処はしているが、それでもうまく育たないものは、この地に合わない、ないしは私には合わないと考え、あきらめることが多い。

全体的にあって、ハーブは強い。ほったらかして大丈夫なものが多い。収穫以外の手入れが不要なのだ。見回って、気になる時だけ、対処するぐらいといってよいだろう。

写真は、種から育てたペパーミント(中)、タイム(下) いずれも種まきから8カ月後





2016年07月28日

## 防虫剤 入浴剤 使い方4 『連載 私とハーブ』8

衣服箱の防虫のために、以前は市販の合成防虫剤を使っていたが、猛毒だし、皮膚がよくかぶれたりした。そこで、我が家の薬草・ハーブ類を乾燥させて防虫剤を作っている。月桃（サンニン） フーチバー（ヨモギ） ベチパー セージ類（現在は、メドーセージとボッグセージ）

2～3週間乾燥させたものを、風通しの良い紙袋や布袋に入れて、部屋の隅や衣装箱・ウォーキング・クロゼットに置いている。劇的に虫が減るというわけではないが、虫害が出ているわけではないから、効果があると思う。

アリよけとして、ペニーロイヤルミントを必要な場に置くこともしてきたが、目に見えるほどの効果があるわけではないので、だんだん使わなくなっている。

ティートリーを入浴剤として使っている。

枝葉を10～15分煮出した液を浴槽に入れる。煮出している時から、部屋中がいい香りに包まれる。これを入れた風呂は、まさに極楽だ。使い終わった枝葉にも、香りが残っているので、乾燥させて部屋の隅や棚の隅などにおいて、香りを楽しんでいる。



客人に、枝葉をお土産に差し上げることもある。

ティートリーの他にも、入浴剤になるものがあるが、我が家ではやっていない。



2016年07月22日

### 薬用酒 薬用茶 使い方3 『連載 私とハーブ』7

ここ数年の私がたしなむ酒は手作りの薬用酒がほとんどだ。味は、養命酒に似ている。北欧のハーブ酒をいただいたことがあるが、これまた同じような味だった。

薬草茶も日常的につくって、飲んでいる。

入れるものは、薬用酒も薬草茶も同じだ。並べよう。ハーブといってもいいだろうが、沖縄の薬草といったほうが身近に感じる。

クミスクチン (猫のひげ) 月桃 (サンニン) (葉と種) フーチバー (よもぎ) ハママーチ (沖縄よ

もぎ) 長命草 ピワ葉 バンシルー (グアバ) 葉 桑の葉 ウッチン (うこん) クァンソー これに買ってきたハブ茶やサルノコシカケを加えることもある。

酒の方 (上写真) は、以上を半月ばかり乾燥させた後に、黒砂糖を加えて泡盛を入れる。1か月もすれば出来上がり

茶の方 (中写真) は、以上を一か月以上乾燥させて保存する。必要な時に、30分煎るのがベスト。濃縮されたものになるが、冷蔵庫保存をして、薄めて飲む。忙しい時は、熱湯を注いで5分以上待って、通常のお茶のように飲む。

この他に、近所の声楽家から教えられたが、フェンネル (イーチョー

バ) を赤ワインに浸ける (下写真)。喉にいいということで、声楽家には、愛用している人が多いとのこと。我が家でも、年に一回作る。





2016年07月17日

ドラゴンフルーツの  
開花連続写真



5月末から開花し始めたドラゴン。毎年、10月末まで続く。無論、真っ赤になった美味しいものをたくさんいただく。今回は、開花前後の写真を掲載しよう。新月・満月に咲くのが通常だが、今年はなぜだか、数日早い。

上左 開花1時間前



上右 開花直前



中左と中右 開花（夜8時30分ごろ）

下左 翌朝6時30分ごろ



下右 翌日 授粉して、まだ小さいが、実のもとになるものが見えている。この緑色のものが大きくなって赤くなる20日後に収穫する予定。



2016年07月15日

## 料理 野菜サラダと味付け 使い方2 『連載 私とハーブ』6

我が家でハーブを料理用に使うのは、比較的新しいので、それほどの蓄積はない。だから、ごく普通の使い方に限られている。

まず野菜サラダ。私の場合、生野菜に混ぜるだけのものだ。

一番よく使うのは、ルッコラ（ロケット）（写真）。葉を下から一枚ずつ取っていけば、多年草化しやすいので、通年使用している。ほかには、パセリ、イタリアンパセリ、チャービル（セルフイーユ）、サラダバーネットがある。大好きなのは、チャービル。とても香りがいいので、毎年育てている。これらは、一年草なので、秋に苗を買ってきて、育てることが多い。

これらをセロリ（本によっては、ハーブ扱いだ）、キュウリ、ゴーヤ、トマト、タマネギ、ハンダマなどの定番野菜と混ぜるだけ。好みによって、ドレッシングを使うが、私は全く使わない。ルッコラやチャービルがあると、それだけで味と香りをだすので、薄味が好きな私はドレッシングをかけない。恵美子は少しだけ使っている。

ときには、ツナなどを上に載せる。それでかなりな味がつく。

他に代表的なものとして、パスタに入れるバジルがある。

そして、スープ・シチューに入れるコリアンダー（パクチー）も、私は大好きだ。苦手な人もいるが、タイ料理などでは定番だ。秋に種まきか苗を植えるので、年明けごろから5月ごろまで収穫できるので、活用はその時期だ。

樹木である月桂樹（ベイ、ローレル）の葉を、煮込み料理などに使うこともたまにはある。

他にも、ローズマリーなどを使う例が本には出ているが、我が家では、そういう料理が少ないためもあるが、使っていない。

余談だが、本によって、アスパラガスもハーブ扱いだが、取り立てのアスパラガスをそのまま食べるのは、贅沢な楽しみだ。





2016年07月09日

## ハーブティー 使い方1 『連載 私とハーブ』5

使い方の話に移る。私の使い方での日常的なものは、なんとといってもハーブティーだ。

10日に一度ぐらい、庭畑のハーブをバケツ一杯ほど収穫してくる。収穫の際、ティーを出すときに使う大きさにカットする。おおよそ8~12種類ぐらいになる。

それを水洗いする。ポリ袋で、冷蔵庫に入れて保存する。10日間（夏なら一週間）で使いきる。（写真右の2袋）飲む時に、必要な量をポットに入れる。だから、生ハーブを使うのだ。ドライハーブではない。庭畑で収穫できるものを入れる。ないものを特別に付け足すわけではない。だから、すべて「季節限定」となる。といっても、年中収穫できるものが大半なので、そうは変わらない。たとえばカモミールは年中収穫できないので、まさに季節限定となる。

ハーブを入れたポットに熱湯を入れ、10~15分待って飲む。（写真左） 外出への持参用には、濃い目に出して、水で薄めて、ペットボトルに入れる。持参するのは、卓球の練習・試合の時と、授業・会議の時だ。

入れるものは、以前は、元気を出す系と穏やかにする系とに分けていたが、面倒なので今はそうしていない。写真のように入れると、濃い目のティーが10杯以上飲める。3番だしぐらいまでOKだ。濃すぎる時は薄めればよい。甘味をつけるものが入るので、甘味を感じ、砂糖を入れる必要はまったくない。

入れているものを並べよう。

### 1) 日常的に入れているもの

ミント類数種（クールミント、アップルミント、ブラックミント、バナナミント）

ローズマリー3種類 タイム2種類

レモングラス レモンバウム（別名メリッサ） オレガノ

甘味をつけるために、メキシカン・スイート・ハーブ



### 2) 収穫がある時などに入れるもの

ミント類数種（スペアミント カーリーミント パイナップルミント スイスリッコラミント オーデコロンミント オレンジミント ペパーミント マウンテンミント）

ベルガモット カラミント

セントジョンスワート（特定の薬と合わせると、よくないので、省くこともある）

レモンティートリー（ティーには入れられないティートリーに似ているが、全く異なる種）

ゲッケイジュ（別名ベイ、またはローレル） 甘味をつけるために、ステビア

※ 入れないもの 入れてはならないもの

セージ類 ペニーロイヤルミント ティートリー



2016年07月07日

## サガリバナの大量開花

我が庭のサガリバナ（サワフジ）が、ものすごく咲いている。数十本の房からの開花。夜8時過ぎの撮影。

昨季は、5月から咲き始め、年を越した1月まで咲き続けた。今年も5月から咲いているが、量がすさまじい。少しだけ清楚に咲くというのではなく、桜の満開と同じ。

真っ暗になる8時すぎから咲き始め、朝7時には落ちる。

中右写真は、落ちかけのもの

落ちた後の地面は真っ白になる。



2016年07月05日

## ハーブを広める 私のハーブ歴4 『連載 私とハーブ』4

近隣ではしばらく前までハーブは意外と知られていなかった。

私は、2006年11月からの一年間、花野果村でハーブを販売した。週に1、2回袋詰めにして出品。しかし、初体験で私が未熟だということに加えて、ハーブが知れ渡っていないことがあって、売れ行き不調。一年間で総計1万円。記録的不振ともいうべきだろう。忙しくなったこともあって、やめる。

ドライハーブは使ったり見たりしたことがあるが、生ハーブは、初めて見るという人が結構いた。生ハーブを見て「どうやって、乾燥させて、ハーブティーにするのですか」という質問をうけたことさえある。

8、9年前、半島芸術祭 in 南城を我が家でも開いた時などにも販売した。相手に直接説明しながらなので、それなりに売れた。しかし、それ以降は、販売することはしていない。

ハーブティー・パーティーを開いたことは多い。我が家での集いは、酒の「飲み会」ではなく、ハーブティーの「飲み会」だ。訪問者にハーブティーを出すのは日常のことだ。

授業や会合などに持参することもしばしばだ。ハーブティーにすることが多いが、葉を数枚渡して、同じ仲間同士集まるといったゲームに使うこともある。

ところで、この10年余り、ハーブに関するいろいろな本を10冊ぐらいいは購入読書したのだろうか。でも、それらの何冊かは差し上げたので、手元には2～3冊しか残っていない。そのなかで、比較的最近読んだベニシア著「ベニシアのハーブ便り」(世界文化社2007年)は、大変役立てた。とくに活用法でとても参考になった。

数年前のハーブ・フェスティバルの折、講座開催依頼を受けた。しかし、参加者が参加費を払う有料と聴いて辞退した。お金をいただいてやるほどの蓄積は私にはない。参加者が私よりよく知っていることもあるだろう。「素人が楽しんでやっているだけだ」と説明。「講師謝礼無しで無料」だったらやってもいい、と応えた。

事情は変わってきて、この近隣でもいまではハーブは広く知られるようになった。私自身の活用方法も広がり、「ハーブ生活」と半分ぐらいいはいえそうだ。私の生活にとって、ハーブは欠かせない存在になっている。

新しい苗に挑戦したり、繁殖させたりなど、どんどん拡大する時期は終わった。そうでなく、安定的に育て活用する流れになってきている。育て方もほったらかしに近く、日常的な管理だけで済むようになってきている。

アロマ・エッセンスの活用の方は、ここ一年、恵美子が急激に凝り始めて、私を「追い抜いて」、私も彼女のお世話になっている。

余談 ハーブ・テロという言葉があるそうだ。よく殖えるハーブを誰かの庭に投げ込んで、繁殖させて、庭を占拠させることをいうそうだ。我が庭でいうと、クールミントとバナナミントがそうしたレベルに達している。特に夏場はそうなので、どんどん引き抜いている。

2016年06月28日

## 本格的ハーブ栽培へ 私のハーブ歴3 『連載 私とハーブ』3

1999—2000年のトロント在住時代には、まわりにハーブ関連が多いのに驚く。たとえば、多くの店に安価なハーブティー・パックが置かれていた。

日本に帰って後、体調不良が激しかったこともあって、以前にも増してハーブ・アロマに凝り始める。

愛知県の赤池の庭では、カモミールなどを栽培し始めた。砂質の土であったためか、カモミールが繁殖し、種こぼれで翌年からも殖えるようになった。

アロマ・エッセンスの学習と試行を広げる。多様なアロマ・エッセンスを活用した。愛用していたローズマリーとカモミールに加えて好きになったのは、ティートリー。他にも10種以上を活用する。

日本でも普及が進み始めたハーブティー・パックを購入して日常的に楽しむ。

2004年から現在の玉城生活を始めるが、庭畑づくりをして、本腰を入れて、ハーブを栽培し始める。苗店で売られている種や苗をすべて試してみる。近隣のハーブ専門の「花風」さんからいただいたベチパーをはじめとして、いただいた苗もある。

試した苗は、数年間で100種類ほどになるだろう。ほとんど露地栽培、ごく一部鉢植えで、特別な栽培方法をしたわけではない。そのなかで、土地が合って生き残り、また活用のしがいがあるものを育てていく。近年では、40～50種に落ちついただろうか。

下写真のらせん型ハーブ園を2006年ごろ作りはじめる。2013年に現在の第二代目を作り、栽培しているものの半数近くをそこに集めて育てている。それが3坪ぐらいあり、他にも3坪ぐらいで育てている。写真のらせん型ハーブ園には、20種余り育てている。

特筆するほど話題になるのは、ティートリーの苗を店で見つけて、畑に植えたことだ。しかし、栽培方法がわからない。そのころのウェブサイトにも登場しない。最近では、ヒットするようになったが。

そのうち、湿気を好むことがわかり、湿気が高い場所へ移植したら、ぐんぐん成長し始める。そして、数年前から美しい白い花が満開になり、我が家の自慢の花にもなる。

沖縄の気候でいうと、ラベンダーは難しい。レース・ラベンダーは育つということで、沖縄の苗店で売られているラ

ベンダーはほとんどこれだ。私も何度もやってみたが、春秋は育つが、夏を越すのは、特別の配慮をしなければ、無理だ。だから、これだけは、一年草のように育てている。

一年草だと言われるハーブでも、多年草化するものも多い。ルッコラなどがそうだ。

旅に出ると、各地のハーブ園を見ることが多い。気候などの違いに対応した育て方などを見て、役立つ知識を仕入れてくる。最近では、2015年の神戸の布引ハーブ園で楽しい数時間を過ごした。





2016年06月23日

## 池 メダカとグッピー

11日記事で書いた池つくりの話のその後。  
無事完成して、メダカが卵を産み付けてあるホテ  
イアオイを入れ込んだ。沢山過ぎるので、半分だけ  
入れて、残りはバケツ3杯に入れてある。現在、稚魚  
が合計50匹ぐらいいると思う。その半分ぐらいが  
成魚になることを祈っている。

梅雨末期の豪雨の水が流れ込んで大変だったが、  
なんとかした。

これまで水槽にいた成魚20匹は、庭のこれまでの池に移した。それまでにいた15匹余りと、合計30匹余りで、賑わしく生活している。

他に巨大バケツに幼魚20匹余りが暮らしているが、一か月もして、池が落ち着けば、どちらかの池に移すつもりだ。

これまでの水槽は、掃除をして一階の室内に移した。何を育てようか迷ったが、育てやすく美しいグッピーにした。これまで、何の装置もつけなかったが、今回は、ろ過装置だけをつけた。こんなに水がきれいになるとは、驚きだ。グッピーは、3つがいを購入した。元気そのものだ。餌もすぐに食べきる。まだ幼魚のはずだが、もうオスがメスを追いかけている。



2016年06月16日

## アロエ鼻うがい 続 私のハーブ歴 『連載 私とハーブ』 2

私は中学生時代からずっと気管支炎に悩まされてきた。毎年の季節替わりに、40度前後の高熱をだし、3～5日間は寝込むのだった。医者にも、「よく休んでよく食べて体力をつけよ」と言われて、気管支拡張剤と解熱剤を処方してくれるだけだったので、そのうち、医者にも行かず、よく休んで、自分で治すことに専念した。

1972年に空気がきれいな沖縄に移住し、症状は多少軽減された。都会のストレス生活が減ったこともよかっただろう。それにしても、年に2回は発熱し苦しむことには変わりはなかった。

対処法をいろいろと調べるうちに、アロエの消炎効果に注目するとともに、口からのうがいよりも鼻からのうがいもいいことも知った。多分、ヨガ関係の情報だったと思う。

そこで、いろいろと試行錯誤して、ぬるま湯（お茶の出がらし）に食塩とアロエ（種類は問わない）のしぼり汁（あるいはすりおろしたもの）を加えたものに落ち着き、それを鼻から吸い込む。鼻づまりが激しかった最初のうちは、鼻から入れても、戻ってきてしまうが、そのうち口から出てくるようになった。鼻から口へと流れるようになったのだ。そこで、蓄膿症（副鼻腔炎）があることも気づいた。

ほとんど毎日のように続けていた。旅行先にも持参してほぼ欠かさず行った。数年続けたある日、硬いものができた。まるで石だった。蓄膿が固まったものが、副鼻腔と鼻の通り道をとても狭くしていたのだ。その後、鼻・口・喉がスースーするようになり、匂いをよく感じるようになった。

このアロエ鼻うがいは、その後も続けるが、とくに風邪・気管支炎の時、汚い空気を吸ったときは念入りにやった。1990年に愛知に移ってからは、寒暖が激しい生活、空気もきれいではない生活になったので、とりわけ重視した。トロント生活でも、代用品を使って行っていた。

2004年からの沖縄第二次生活で、気管支炎の症状が軽くなり、2010年ごろには、ほぼ終わり、鼻うがいも、とくに必要な時だけになった。年に数回程度だ。

この鼻うがいは、私にとってはとても大切なものだったが、人にすすめると、皆さん尻込みして、だれもやる人はいない。それでも時の経過とともに、1990年代ごろになると、鼻うがいを勧める医療関係者も出始めた。

1990年に愛知に移り、翌91年から日進市赤池に住むようになった。



最初のうちはそうでもなかったが、そのうち全国を飛び回る繁忙の時期になり、90年代後半からは、体調不良が続く。

その対処として、アロマに関心をもちはじめる。購入してきたパックで、ハーブティーをよく飲むようになった。そして、アロマ・エッセンスをろうそくの火で温めて、アロマの香りを部屋に広げることも始めた。

いずれも、よく使ったのは、朝は、活力を高めるためのローズマリー、夜は落ち着くためのカモミールだ。

ハーブやアロマではないが、お茶を愛用していた私だが、お茶が血圧降下効果をもつことを知った。かなりの

低血圧だった私は、覚醒機能に期待をして、お茶を大量に飲んでいましたが、それが血圧を下げることを知って、減らした。また、眠気覚ましのためにお茶を飲むと、逆に、睡眠導入効果があることも知って、使い方を改めた。 ということで、お茶類は、午前はウーロン茶、夕方は緑茶、夜は飲まない、という風に改めた。

写真は、鼻うがいによく使ったアロエ

2016年06月11日

ドラゴンフルーツ ライチ ア

マリリス 第二号池作り

このところの我が庭畑の話題をいくつか。

このところの関心事、ホタルが見られる日は時々。サガリバナの開花は間歇的に続いている。

ライチが赤くなってきた (右写真)。残念



ながら、例年よりはるかに少ない。隔年現象なのか、気候のためかは不明。

ドラゴンフルーツの季節に入った。9日記事に開花写真を掲載した。左写真は、開花直前の夕刻撮影。

アマリリスの仲間 (下写真)。数年前に東村で購入した大きな球根だが、毎年沢山開花する。普通のアマリリスより開花が一月以上遅い。



ホタルが来ているのは、池をつくったからだという恵美子の説を信じ、中庭に第二号の池を作る。2回目なので、慣れているためか、前回の数分の一のエネルギーと時間で出来る。







していく。

これまでの水槽には、金魚か他の熱帯魚かを育てるつもり。

既製品の池を買ってくることから始まる。前回買った店では、経営者が代わったためか、置いていないとのこと。二軒目では、店頭で見つからないので、店員に尋ねる。紹介されたのは注文生産品。そのあたりを見わたすと、既製品が隠れてあるのを発見。前回のものと同じタイプ。買う人が滅多にいないので、店員もよくわからない商品のようなのだ。

第一号の半分ぐらいの大きさ。

穴を掘って、据え付けるだけという簡易なもの。この後、周辺にタマリユウを植える予定。そして、メダカの稚魚と卵を産み付けられているホテイアオイを移

2016年06月04日

## 『連載 私とハーブ』スタート 連載のあらまし

我が庭畑には、おおよそ40種類のハーブが生きている。そして、私は日常的にハーブを使って楽しんでいる。このブログでも、ハーブの記事をたくさん書いてきたが、このところ減ってきている。あまりに日常化しすぎて、慣れてしまい、記事にするような驚きが減ったからかもしれない。

そこで、改めて『連載 私とハーブ』としてまとめながら、掲載していこうと思う。

私のハーブ歴

使い方

育て方

育てているもの

という流れだ。無論、最後の「育てているもの」が多くなるだろう。

ところで、ハーブの範囲はどこまでか。以前、今も愛用している、萩尾エリ子『ハーブの図鑑』池田書店2004年を見ていて、アロエも書いてあるのを見て驚いた。ミント、ローズマリー、タイム、バジルなどといったように、ハーブとしてよく知られたもののイメージがあったからだ。

アロエをハーブだとすると、私のつきあいは1970年代半ばだから、もう40年ハーブと付き合い合っていることになる。

2015年6月30日の記事で書いた、安田美知子「沖縄ハーブ健康法」WAVE出版2015年を読むと、ヨーロッパの店頭で「琉球ハーブ」が並んでいるそうだが、それは沖縄で薬草として愛されているものだ。

沖縄薬草もハーブの仲間に入れると、我が庭畑のハーブの種類は、さらに増える。今回は、これらのなかで、私が意図的に育てているものも視野にいれよう。

### 1) 私のハーブ歴

私のハーブの出会いは、よく覚えていない。先に書いたようにアロエということになると、1970年代だ。恵美子が「アロエはいい」というものだから、私も「はまった」のがきっかけだと思う。キダチアロエといただいた鑑賞用アロエを、育て始めたのは、1974～6年の南風原新川時代だと思う。

使用法は、広く知られている消毒作用を活用する塗り薬が中心だった。たまにキダチアロエを食べたこともあったと思う。

そして、1976年5月からの西原の小波津団地生活でも、この2種類を育ててきた。ベラをいつから育て始めたかは、記憶がはっきりしない。西原時代かもしれないし、近年の玉城時代かもしれない。

私にとって決定的に重要なのは、アロエの「鼻うがい」だ。

この話は長くなるので、次回にしよう。



2016年05月28日

我が庭畑 アジサイ ソテツ クチナシ リュウキュウハギ マンゴー バナナ



満開の  
アジサイ  
(上左)



ソテツ  
の蕾?(上  
右) これ  
まで、我が  
庭ではオ  
スばかり

だ。でも、美しさは最高。これがどんどん成長して何倍もの大きさに至る。

クチナシの花 (中左)

リュウキュウハギ (中右) 開花は秋だと思いこんでいたが、いまごろも咲いた。

今年は全滅だと思っていたら、一個だけ実がついているマンゴー (下左)



バナナ (下  
右) 収穫は、  
10月ごろか



2016年05月  
14日

もう咲い

## たサガリバナ＝サワフジの花

今朝、庭でサガリバナの花が落ちているのを発見(下右写真)。上をみると、蕾がたくさん垂れ下がっている。そこで、夜7時20分に撮影(右写真、下写真)。

例年だと、6月に入ってから開花なのに、今年は早い。それに、例年夏が終わると開花終了で、10月に咲くと新聞種になるのだが、我が家の木は、10月どころか12月さらには越年して1月初めまで咲いた。

どうしてだろうか。こまめに剪定しているためか。だから、2～4月以外は咲いていることになる。

よく観察すると、2本垂れ下がっている。一房がおおよそ10日間咲き続けるので、観察希望者はどうぞ。ただし、暗くなってからしか咲かない。しかも、夜になると、ハブが出没するところなので、覚悟が必要。警戒しすぎか。

この木は、私が10年近く前、苗木を植えたもの。現在樹高5メートル。樹高4メートルのもう1本も、まもなく開花する雰囲気だ。





2016年05月10日

花の季節 メドウセージ タイワンレンギョウ  
 ハンギングヘリコニア ペンタス サンニン=月桃

急に暑くなってきた。花々も季節変化に遅れまいと必死な感じがする。我が庭で今咲いているからいくつか紹介しよう。

メドウセージ (上写真) 紫色が美しい。似ているボッグセージも咲きかけている。

タイワンレンギョウ (右写真) 4月から咲いているが、これからが本番だ。これまた紫色。灌木だが、もう樹高2メートルを超す大きなものになっている。



ハンギングヘリコニア (下左写真) 昨年までは、極楽鳥花だと思い込んでいたが、調べて違いに気づいた。ここに引っ越してきた間もないころ訪問客にいただいたものだが、最近、どんどん広がり、今年はたくさん開花し始めている。強烈で、いかにも熱帯の花というだ。感じた。

ペンタス (下右写真) 挿し木でふやせるので、あちこちで育てている。色も何種類もあるが、我が家では、ピンクと赤を中心にしている。





サンニン=月桃（左写真） いかにも沖縄の花という感じ。強烈な生命力で、我が家の近隣でも咲き誇っている。

そういえば、デイゴがあちこちで咲いているのを見かける。デイゴが咲くと台風が来るというが、私の体験からいうと、因果性はない。



2016年05月08日

### 満開のティートリーと開花しはじめたリュウキュウキョウチクトウ

3日記事で紹介したティートリーが満開に近づいた。

そして、

リュウキュウキョウチクトウが開花しはじめた。清楚な色だ。ただし、毒性が強いので、扱いは注意が必要。

双方とも、樹高5メートルの大きなものだ。そのため、地上からでは撮影がしにくく、屋上から望遠で撮影したものが多く、少々ボケるが、やむを得ない。





2016年05月03日

## ティートリー満開へ

例年なら、3～4月に満開を迎えるのだが、今年  
はなぜだか、とっても遅い。新記録だ。冬場の寒さ  
のためだろうか。今年の開花をあきらめかけていた  
ところに、開花だ。

現在は二分咲きといったところだが、これから一  
週間が見ごろになりそうだ。でも、例年より花の量

が半減しそうだ。下の道路からでは見にくく、我が家3階ベランダが一番よさそうだ。

ともかく、文句なしに美しい。訪問者は、だ  
れでも「あの花なんですか」と尋ねる。初めて  
見る人ばかりだ。







2016年05月01日  
ピタンガ パッ  
ションフルーツ  
ブルーベリー  
我が庭の果樹の  
近況



ピタンガは、数年前から収穫してはいたが、今年がこれまでで最高だ。毎日20～30個は収穫できる。今は2本の木からだが、落ちた実からすぐに発芽するので、増えてきている。2～3本以上は不要なので、処分し始めている。ご希望の方がいたら、苗木を差し上げます。

1センチぐらいで小さい赤い実だ。熟していないと、苦みが残るが、熟し切ると甘味と酸味で美味しい。頻繁に収穫という感じで、収穫し損ねて地面に落ちてしまうものも多い。

アセローラに似ているので、間違えた人がいるほどだ。新聞で美容にいいとかなんとか書いてあった。桑の実を美味しくしたという感じだ。

上右写真は、今収穫している木。高さ2メートル足らず。



中右写真のパッションフルーツは、強剪定しすぎたためか、今年は出足が悪い。それでも開花が始まった。



左写真は開花したブルーベリー。咲きはしたが、収穫にまで至るには、時がかかりそうだ。

2016年04月26日

コデマリ アマリリス ミニバラ

ケイトウ ネコノヒゲ=クミスク

チン

次々と開花する季節。今回は5つを紹介する

コデマリ もう10年ほどになる。少しずつだが、毎年開花



アマリリス この地域には多い。多分10年以上前に一斉に植えたのではなかろうか。手入れなしだが、毎年咲く。

ミニバラ 数年前からいくつも植えている。





ケイトウ 苗を植えた記憶はなく、どこかの道端にあるのを移植しただけと思うが、きれいに咲いている。

ネコノヒゲ=クミスクチン 薬草として、たくさん栽培しているが、この時期から、いっぱい咲き誇る。名前にふさわしい花だ。クミスクチンという名を日本語に直訳すると、猫のひげ、ということだ。



2016年04月19日

## オープンガーデン2 大城徳

### 明さん宅 知念宮子さん宅



二つ目の大城徳明さん宅（左写真）は、中村光博さん（前回紹介）の指導援助ということのようだが、立派な庭園だ。へゴもあった。

ここでもいくつもの発見があった。そのなかの一つは、リュウキュウコスミレ（中

右写真）を群生させていること。我が庭にも、自生しているが、最初のころは無意識に引っっこ抜いていたが、地味だと



しても結構美しいので、育て始めた。それがこん

なに立派に群生しているので、私のやる気をかきたてた。外来のものより、こうした自生のものを大切にしたい。



三つ目の知念宮子さん宅。5年ぶりほどの訪問だ。ますます磨きがかかる庭だ。我が庭作りの参考になる点が多い。

下左写真は、木陰の語らいの場



上左写真 ローズマリーが大きくなっている。我が家のものがこんなになるには、あと10年はかかりそう。



いくつか参考にしたいことを書こう

1) スパティフィラム(上右写真) 我が家でも長く育てているが、こんなに繁殖させているのを見てびっくり。

2) 通路の土の上に、木くずを敷いて、美しく歩きやすくしている(左写真)。木くずの取得先も伺った。試してみたい。



3) 芝生の中に、ヒメキランソウ(中右写真)を植えて美しくしている。我が庭では芝生を止めたからできないが、グッドアイデアだ。

2016年04月17日

オープンガーデン1 すごい庭 参考になるアイデア満載 中村光博さん宅

16日から開催のオープンガーデンは毎回出かけている。新しく開くところは必ず出かけるが、他は、いくつか選んで出かける。そうしたところでは再訪になる。

訪問先では、素晴らしさを堪能するだけでなく、知恵をいただいて、我が庭に応用してみようという魂胆を持ち始めた。その魂胆を中心に紹介していくことにしよう。

まず16日の午後、3つの会場をまわった。前川と湧稲国にある。

最初は、前川の中村光博さん宅。庭作り開始から20年以上になるとのこと。次の訪問先の大城さんの話だと、盆栽の名人で盆栽歴がすごいらしい。庭も、プロが舌を巻くほどだとのこと。

本格的な庭園なのだが、私が学びたいと思ったことを連ねよう。

1) ヘゴ (下左写真) 山原の土をいれて育てるとの事。根はそれほど深くなく、バケツに数杯で大丈夫らしい。根は横に広がるということだ。我が家の日蔭に育てたい。それは恵美子が言い出したことだ。



2) ソテツの太い幹に一杯の子どもがついている (下右写真)。私は子どもが出てきたら取り除いていたが、ここでは、出てきた新葉だけをとっているとのこと。すると、写真のように、丸いものが幹のまわ





りにいっぱい着いている感じになる。

3) 苔類で地面を覆う（上左写真）。

4) クロキを斜めに育てる。わざと傾けて育てているとのこと（右写真）。並んだ電柱も少し傾け、上の方に古い型のランプをつけ、切れた電線を下げている。台風にやられたという自然さを演出するということだ。なるほど



2016年04月14日

庭畑は花盛りになりそうな来週

オクラレルカ リュウキュウキョ

ウチクトウ ハンギングヘリコニア

ア など



雨連続で、畑庭作業ができなくて困っている。でも、雨と暖かさのため、いろんな花の蕾が膨らんできている。

アマリリス ユリ ハンギングヘリコニア

2分咲になっているものもある。

オクラレルカ リュウキュウキョウチクトウ ジャスミンマツリカ タイワンレンギョウ

来週から5月初めにかけて見頃になりそうだ。

他には、ミニバラ キンギョソウ アネモネ ガザニアなどが咲いている。そのなかで目立つのは、なんといってもブーゲンビリアだ。

我が庭は、どちらかという、観葉植物と果樹に覆われて花は目立ちにくい、この時期は、存在感を示す。南城市のオープン・ガーデンが来週開かれるが、それに合わせるようにだ。我が家はオープン・ガーデンをしていないが、いつか開きたいとは思っている。

下左はハンギングヘリコニアの蕾

下右はリュウキュウキョウチクトウ





2016年04月11日

## ソテツの新葉



このところ暖かさが続き、雨量も多い。庭畑のあちこちから、水がわきだす。我が家周辺は、泥岩（クチャ）層のうえに琉球石灰岩が乗っている地層だ。両者の間を水が流れる。泥岩は水を通さず、石灰岩は水を通すからだ。だから、このあたりは、有名な垣花樋川を始め、湧水が多い。我が家もそんな地層に連なっているのだ。

ということで、植物たちにとっては、生育条件が急に整ってきた。

オクラレルカも、咲き始めた。これから半月間が見ごろだ。満開になったら紹介しよう。



今回は、ソテツの新葉を紹介しよう。この家の建築が始まるころ



に一個植えた。住み始めてから数個植えた。すべて敷地内に自生しているのを見つけたものだ。最初は、3センチくらいだったが、今では、1～2メートルの高さになっている。

写真は植えた順。上二つは、子どももできている。

1～2か月もすると、花芽が出てくるだろう。昨年までに、二つが開花したが、二つとも雄花。今年は、雌花も出てくることを期待する。

毎年、私たちを楽しませてくれ、我が家自慢のティートリーが、今年はまだ開花どころか蕾もつけていない。年末年始の異常な寒さのためだろうか。ここ数日で、新芽を出し始めたので、開花までいくことを期待しているが、半ばあきらめ状態だ。





2016年04月04日

ブーゲンビリア リュウキュウ

バライチゴ レモンの花

我が庭畑の話題

1) 満開のブーゲンビリア

2) リュウキュウバライチゴが実をつける。  
鳥などに食べられて、人間が食べるのはなかなか大変。

3) レモンの花 今年初めて 2個が咲いて、今、小さな実になりかけている。結実にまで至るだろうか。

